

鐵道橋ノ設計ニ際シテ假定スヘキ活荷重

(第三卷第一號所載)

工學博士 廣 井 勇

745

本問題ハ鐵道橋設計者ノ最モ研究ヲ要スル事項ノ一ニシテ本誌第三卷第一號ニ於ケル會員工學士黒田武定君ノ論說ハ頗ル興味アルモノトス

由來鐵道橋ニ於ケル活荷重ノ漸次増加スルコトハ何レノ國ニアリテモ認ムル處ノ事實ニシテ只々諸邦其率ヲ異ニスルアルノミ其爲メ鐵道橋ハ其自然ノ命數ニ達シテ廢撤セラレタルモノナキハ東西同一轍ニシテ橋梁ノ設計者ハ常ニ將來ノ荷重ヲ豫測セサル可ラス而シテ其方法タルヤ從來多クハ極テ漠然タルモノナルニ代フルニ著者ハ數理的ニ之ヲ豫定セントスルニアリ其所論極テ簡明ナリト雖モ記者ヲシテ忌憚ナク之ヲ評セシメハ云ハン著者ハ簡單ナラサル問題ヲ餘リニ簡單ニ解決セントスルモノニシテ假定多キニ失シ結論ニ多少疑ヲ挾ムノ餘地ナシトセサルヲ遺憾トス故ニ望ムヘクンハ今一步ヲ進メテ少クモ橋梁ノ種類徑間等ニヨリ各種ノ係數ヲ確實ニ定メテ後チ比較計算ヲ施サレンコトニアリ尙ホ費用中ニ年所ト共ニ其額ヲ増加スル修繕費ヲ算入スルニ於テハ更ニ精確ノ度ヲ加フルヲ得ヘシ

著者ノ結論中少シク問題ヲ脱セルノ嫌アリト雖モ橋梁ハ其流用ノ途アル場合ニハ速ニ之ヲ改築

討議 鐵道橋ノ設計ニ際シテ假定スヘキ活荷重

ズルヲ以テ利アリトストノ事アルハ大ニ注意スヘキ點ナリト思考スルモノナリ(完)

鐵道橋ノ設計ニ際シテ假定スヘキ活荷重

鐵道橋ノ設計ニ際シテ假定スヘキ活荷重

日本鐵道協會 編輯

鐵道橋ノ設計ニ際シテ假定スヘキ活荷重

1931

鐵道橋ノ設計ニ際シテ假定スヘキ活荷重